

研究ノート

三重県における特定外来生物とされるアカボシゴマダラ（昆虫綱；チョウ目）の記録について

Some records of the invasive alien species, *Hestina assimilis assimilis* (Insecta; Lepidoptera; Nymphalidae) from Mie Prefecture, central Japan

大島康宏

〒514-0061 三重県津市一身田上津部田3060 三重県総合博物館

キーワード：特定外来生物，生物多様性，タテハチョウ科，分布拡大

(2025年9月30日 受付)

Yasuhiro OHSHIMA*

Mie Prefectural Museum, 3060 Isshinden-kouzubeta, Tsu, Mie 514-0061, Japan

*Corresponding author: ooshiy00@pref.mie.lg.jp

Abstract

The nominotypical subspecies of *Hestina assimilis* (Insecta; Lepidoptera; Nymphalidae), a invasive alien species was confirmed from several places of Mie Prefecture, central Japan. This report considered the route of invasion of this species into Mie Prefecture.

Key words: invasive alien species, biodiversity, Nymphalidae, distribution expansion

アカボシゴマダラ *Hestina assimilis* (Linnaeus, 1758) は、タテハチョウ科 Nymphalidae コムラサキ亜科 Apaturinae の一種で、エノキ *Celtis sinensis* Pers. var. *japonica* (Planch.) Nakai f. *rotundata* (Nakai) Nakai などのニレ科植物 Ulmaceae を寄主植物とする(白水, 2006)。本種は、中国南部をタイプ産地とし、名義タイプ亜種 ssp. *assimilis* (Linnaeus, 1758) が中国、朝鮮半島、ベトナムに、ssp. *formosana* (Moore, 1895) が台湾に、ssp. *shirakii* Shirôzu, 1955 が国内の鹿児島県奄美大島およびその周辺の島嶼に分布するが(日本昆虫目録編集委員会, 2013)、1995年に埼玉県で本種が確認されたことを皮切りに、1998年には神奈川県、その後関東地方全域拡大し、山梨県や静岡県でも確認され、徐々に分布を拡大している。関東地方から分布を拡大している個体群は、名義タイプ亜種個体の人為的移入と考えられて

おり(白水, 2006)、国内に従来から分布している亜種 ssp. *shirakii* Shirôzu, 1955 以外の亜種は、現在、環境省によって特定外来生物に指定されている(<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list.html>, 2025年8月31日最終確認)。本種は、国内において年間数回発生することが知られており(白水, 2006)、名義タイプ亜種は、春に出現する個体において、後翅後縁に並ぶ赤い斑紋が消失するという特徴があつて、奄美大島およびその周辺の島嶼に分布している亜種 ssp. *shirakii* と区別できる。

三重県周辺地域における本亜種の記録で最も多いのは愛知県で、2010年8月に愛知県名古屋市で成虫が撮影されたのち、同年12月に同地で越冬幼虫が確認されている(間野・岩本, 2011; 中橋, 2011)。2020年あたりから、設楽町(間野・近藤, 2020)、豊田市(大隈,

2022), 西尾市 (大鐘, 2022; 久松ら, 2023), 小牧市 (伊藤, 2023), 岡崎市 (久松ら, 2023), 東海市 (吉鶴, 2024) と分布が拡大している. 2024 年には岐阜県各務原市で (宮野, 2024), 2025 年には, 滋賀県長浜市からも確認されている (中川, 2025).

三重県における本亜種の記録は, 2024 年に三重郡川越町亀崎新田で採集された例が最初の記録で (中西, 2024), その後いなべ市鞍掛峠で目撃, 撮影されている

(秋元, 2025). 三重県内における既存記録は, この2例が知られているのみである (図 1).

2025 年になって, 三重県総合博物館 (以下「当館」と言う。) に本亜種と思われる個体の確認情報が複数寄せられた. これらの情報は, 今まで未確認とされている市町の情報がほとんどであり, これらの情報をまとめて報告する.

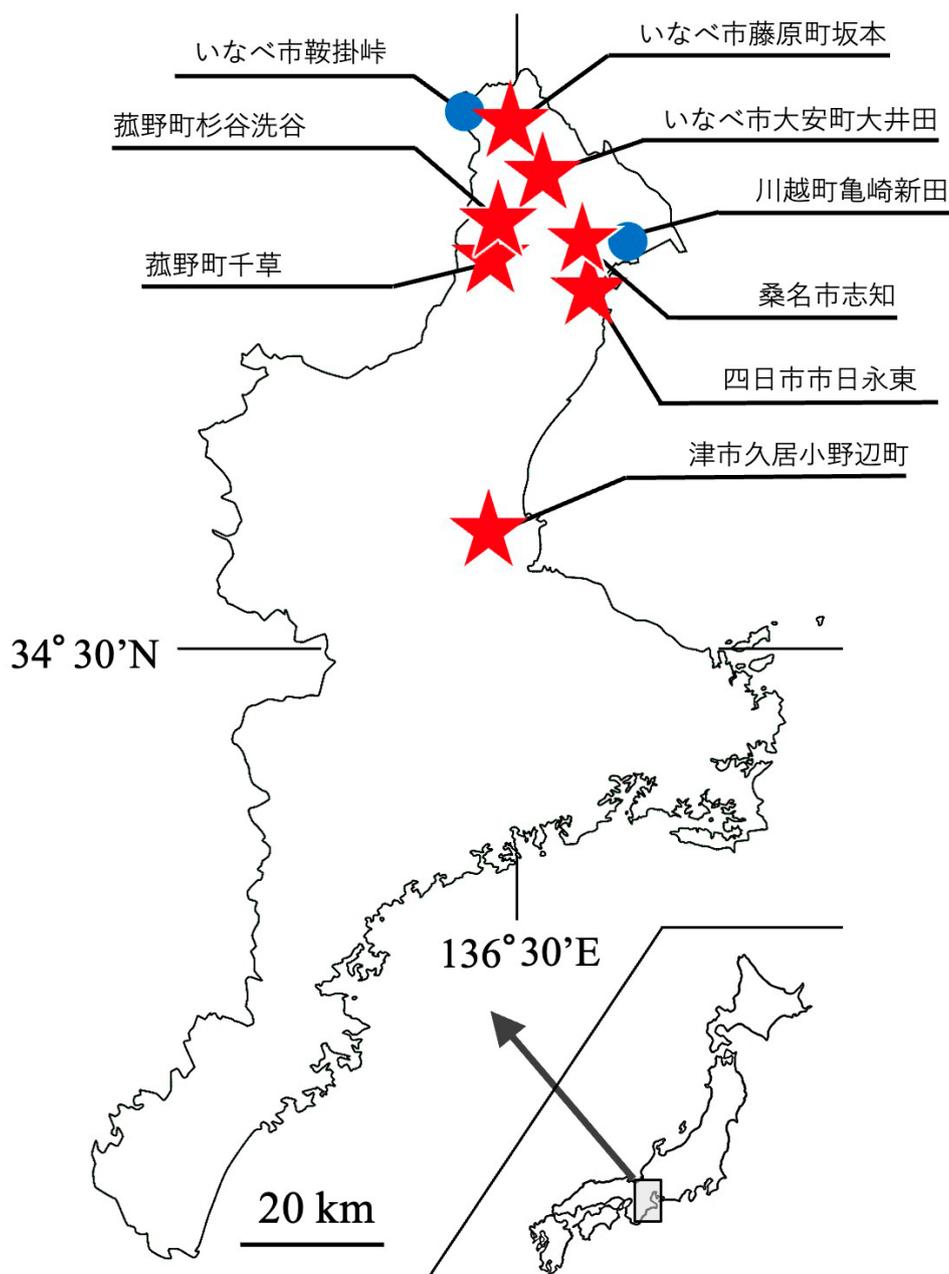


図 1. 三重県内の特定外来種アカボシゴマダラの記録.

● これまでの採集または目撃された地点, ★ 本報で新たに採集または目撃された地点.



図 2. 2025 年 5 月 23 日にいなべ市藤原町坂本で採集されたアカボシゴマダラ名義タイプ亜種 (鈴木健真 撮影).

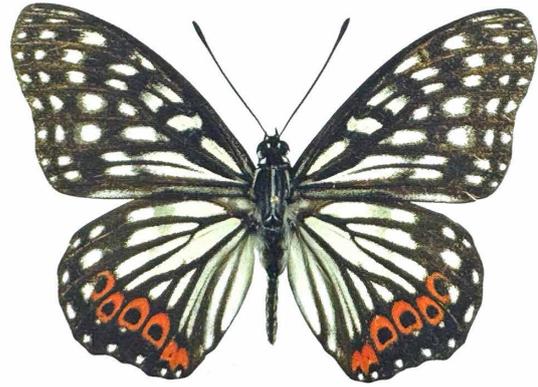


図 4. 2025 年 9 月 29 日にいなべ市大安町大井田で採集されたアカボシゴマダラ名義タイプ亜種 (矢崎充彦 撮影・藤原岳自然科学館保管).



図 3. 2025 年 9 月 27 日にいなべ市大安町大井田で撮影されたアカボシゴマダラ名義タイプ亜種 (矢崎充彦 撮影, トリミングあり).



図 5. 2025 年 9 月 30 日. 三重郡川越町亀崎新田で撮影されたアカボシゴマダラ名義タイプ亜種の幼虫 (中西元男 撮影).

記録

<いなべ市>

1♂. 2025 年 5 月 23 日. いなべ市藤原町坂本, 鈴木健真 採集・保管 (図 2)

屋根のない学校敷地内で採集された. 本種特有の後翅の赤い模様は発達していないが, 奄美地方に生息する亜種 *ssp. shirakii* Shirôzu, 1955 ではないことがわかる.

1ex. 2025 年 9 月 27 日. いなべ市大安町大井田, 矢崎充彦 目撃・撮影 (図 3)

1♀. 2025 年 9 月 29 日. いなべ市大安町大井田, 矢崎充彦 採集・藤原岳自然科学館保管 (図 4)

2025 年 9 月 27 日に宇賀川弁天橋付近にて, 地面にとまった個体を撮影し, 同年 9 月 29 日に採集された. 同一個体かどうか不明ではあるが, エノキの低木に産卵する様子が観察されており, 今後定着する可能性が極めて高い.

<川越町>

1ex. 2025 年 9 月 27 日, 三重郡川越町亀崎新田, 中西元男 目撃・撮影 (図 5)

エノキの葉上において幼虫が目撃, 撮影された. 本地点は, 昨年成虫が記録されている地点であり (中西, 2024), 三重県に本亜種が定着したことが示唆される.

<桑名市>

1♀. 2025 年 9 月 11 日. 桑名市志知, 橋爪美恵子 目撃・撮影 (図 6)

午後 1 時半ごろ, 平群沢ため池公園内にて, 池畔のエノキの葉の周辺を飛翔している個体を発見し, 撮影された. また, 別日に別個体と思われる翅の破損した

個体が目撃されていることから、複数個体が存在していると考えられ、すでに発生を繰り返しているとも推定できる。撮影された個体は産卵中のメスであるため、以後当地に定着する可能性は極めて高い。

<菰野町>

1♂. 2025年9月14日. 三重郡菰野町杉谷洗谷, 加藤雄一郎 目撃・撮影 (図7)

午前8時半過ぎ, 尾高キンダーハイム敷地内で, 施設の管理作業中に建物の軒先で休憩していたところ, 本個体が飛翔してきて足にとまったところをアカボシゴマダラであることを確認し, 撮影された。

1ex. 2025年9月24日. 三重郡菰野町千草, 矢田栄史 目撃・撮影 (図8)

正午過ぎに三重県民の森敷地内で, 数メートルの樹木の葉上に静止と飛翔を繰り返す個体を発見し, 双眼

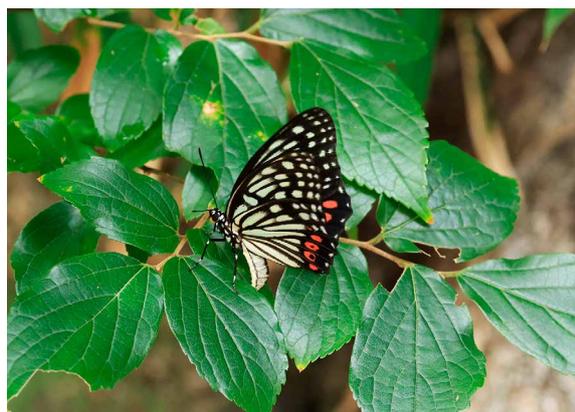


図6. 2025年9月11日. 桑名市志知で撮影されたアカボシゴマダラ名義タイプ亜種 (橋爪美恵子 撮影)。



図7. 2025年9月14日に三重郡菰野町杉谷洗谷で撮影されたアカボシゴマダラ名義タイプ亜種 (加藤雄一郎 撮影, トリミングあり)。

鏡でアカボシゴマダラ確認し, 撮影された。先述の同町杉谷洗谷は比較的近い距離にあるため, この地域一帯で生息している可能性が考えられる。

<四日市市>

1♂. 2025年8月26日. 四日市市日永東, 西山博 目撃・撮影 (図9)

四日市市中央緑地において, 樹木に飛来している個体が撮影された。確認できたのはこの1個体のみであるが, 今後確認される可能性は高く, 状況の確認について西山広華氏によって継続調査を実施している。



図8. 2025年9月24日に三重郡菰野町千草で撮影されたアカボシゴマダラ名義タイプ亜種 (矢田栄史 撮影, トリミングあり)。



図9. 四日市市日永東で撮影されたアカボシゴマダラ名義タイプ亜種 (西山博 撮影)。

<津市>

1♂. 津市久居小野辺町, 2025年7月10日, 齋田裕音 採集・三重県総合博物館収蔵 (図10)

1♀. 久居小野辺町 2025年7月11日, 齋田裕音 採集・三重県総合博物館収蔵

1♂1♀. 久居小野辺町 2025年7月20日, 齋田裕音 採集・保管

7月10日午後5時頃, やや日陰にある樹高6m程のエノキに隣接したカキノキの樹上で, 縄張り行動をしていた個体が採集された. 目撃した時に翅の赤斑が見えたためすぐに本種だと分かったという. 7月11日, 著者が現地を訪れたところ, 樹高15mほどのエノキなどの樹冠部(図11)を, 同属のゴマダラチョウ *H. persimilis*



図10. 2025年7月10日に津市久居小野辺町で採集されたアカボシゴマダラ名義タイプ亜種 (三重県総合博物館蔵).



図11. アカボシゴマダラ名義タイプ亜種が目撃された津市内の環境.

(Westwood, [1850]) に混ざりながら, 素早く飛翔している個体を少なくとも2個体確認した.

なお, 同じく津市内の当館敷地内の屋外展示ミュージアムフィールドでは, 複数のエノキが生育し, 約10年前からゴマダラチョウの生息は確認され続けている(大島・森田, 2022). 当地では, チョウのモニタリング調査を定期的に行っており, 2025年にもゴマダラチョウは複数個体, 複数日にわたって採集し確認できているものの, アカボシゴマダラについては確認できていない.

考察

今回報告した成虫の記録が, 夏から秋の季節にかけて集中することは, 特定外来生物とされる亜種の特徴的な後翅の赤い斑紋が春季には出現しないため, 本亜種と認識できなかったことも考えられる. すでに今年の春の時点で, 北勢地域ほぼ全域に広がっていた可能性は否定できない. 特に北勢地域では, いなべ市や川越町では昨年から引き続いて目撃または採集されており, 菟野町, 桑名市や津市では, 複数の個体が確認されている. このことは, 三重県北勢地域および津市の一部地域において, 本亜種が急速に定着したか, または定着している可能性が極めて高いと考えられる.

本亜種の分布拡大が, 愛知県側から三重県に侵入してきたと想定すると, すでに木曾岬町, 朝日町や東員町だけでなく, 現在記録がない愛知県の三重県境に近

い弥富市や蟹江市においても発見されていても不思議ではない。河合・大島(2024)は、桑名郡木曾岬町のチョウ類の目録をまとめているが、この時点で本亜種についてはまだ確認されていない。愛知県の記録を整理すると、関東地方から分布を拡大した本亜種が、静岡県側からの侵入したのではなく、名古屋市内で突如確認されたのちに、分布を拡大したとも想定できる。本亜種の飛翔能力は検証しておらず、また記録のある地域間の調査が十分であるとは言えないが、侵入した本亜種がどのような経緯で分布を拡大しているのか、間野・岩本(2011)が述べているように、人為的要因も含め判断することが必要であると考えられる。

また今後の課題として、在来種でありかつ寄主植物がアカボシゴマダラと同じであるゴマダラチョウとの競合も危惧される。以後の記録についても留意することと、外来生物に関する注意喚起など対策が必要であると考えられる。

謝辞

末筆ではあるが、本報告にあたって、情報を提供し発表を許された藤原岳自然科学館の矢崎充彦氏、鈴木健真氏、尾高キンダーハイムの加藤雄一郎氏、菰野町の矢田栄史氏、四日市市の西山博氏、橋爪美恵子氏、津市の齋田裕音氏、松阪市の中西元男氏に厚くお礼申し上げます。また本報執筆にあたり、文献の紹介について滋賀県立琵琶湖博物館の今田舜介博士、松阪市の中西元男氏に協力を賜り、また情報提供者との調整にご配慮いただいた三重県民の森の太田玲奈氏、四日市市の西山広華氏、三重県立久居高等学校の京谷優教諭、三重県農林水産部みどり共生推進課の塩野真由主事にも厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 秋元俊夫. 2025. いなべ市石樽峠にてアカボシゴマダラを目撃, 撮影. ひゃくとりむし 557: 6680.
- 久松定智・祖父江崇・牧内拓海・石川也人. 2023. 岡崎市と西尾市でアカボシゴマダラを確認. 佳香蝶, 297: 9-10.
- 伊藤貴也. 2023. 愛知県小牧市におけるアカボシゴマダラの記録. 佳香蝶, 296: 201-202.
- 河合雄治・大島康宏. 2024. 三重県桑名郡木曾岬町のチョウ類相(昆虫綱;チョウ類), 三重県総合博物館研究紀要 10: 1-8.
- 間野隆裕・岩本やよい. 2011. 遂に名古屋市で確認されたアカボシゴマダラ, 佳香蝶, 248: 89.
- 間野隆裕・近藤和義. 2020. アカボシゴマダラを愛知県設楽町で確認, 佳香蝶, 282: 41.
- 中川 優. 2025. 短報アカボシゴマダラ. Came 虫, (211): 11.
- 中橋 徹. 2011. 名古屋市内でアカボシゴマダラ越冬幼虫発見, 佳香蝶, 248: 90-92.
- 日本昆虫目録編集委員会(編), 2013. 日本昆虫目録第7巻 鱗翅目(第1号 セセリチョウ上科-アゲハチョウ上科). xxv+119pp. 日本昆虫学会, 東京.
- 大隈千品. 2022. 豊田市でのアカボシゴマダラの記録. 佳香蝶, 291: 77.
- 大島康宏・森田奈菜. 2022. 三重県総合博物館ミュージアムフィールドにおけるチョウ類相(昆虫綱;チョウ類)について, 三重県総合博物館研究紀要 8: 1-21.
- 白水 隆. 2006. 日本産蝶類標準図鑑. 336pp. 学習研究社, 東京.
- 吉鶴靖則. 2024. 東海市でアカボシゴマダラを記録. 佳香蝶, 300: 127.